

第2回～第4回WGでの議論の範囲と関連性(1／2)

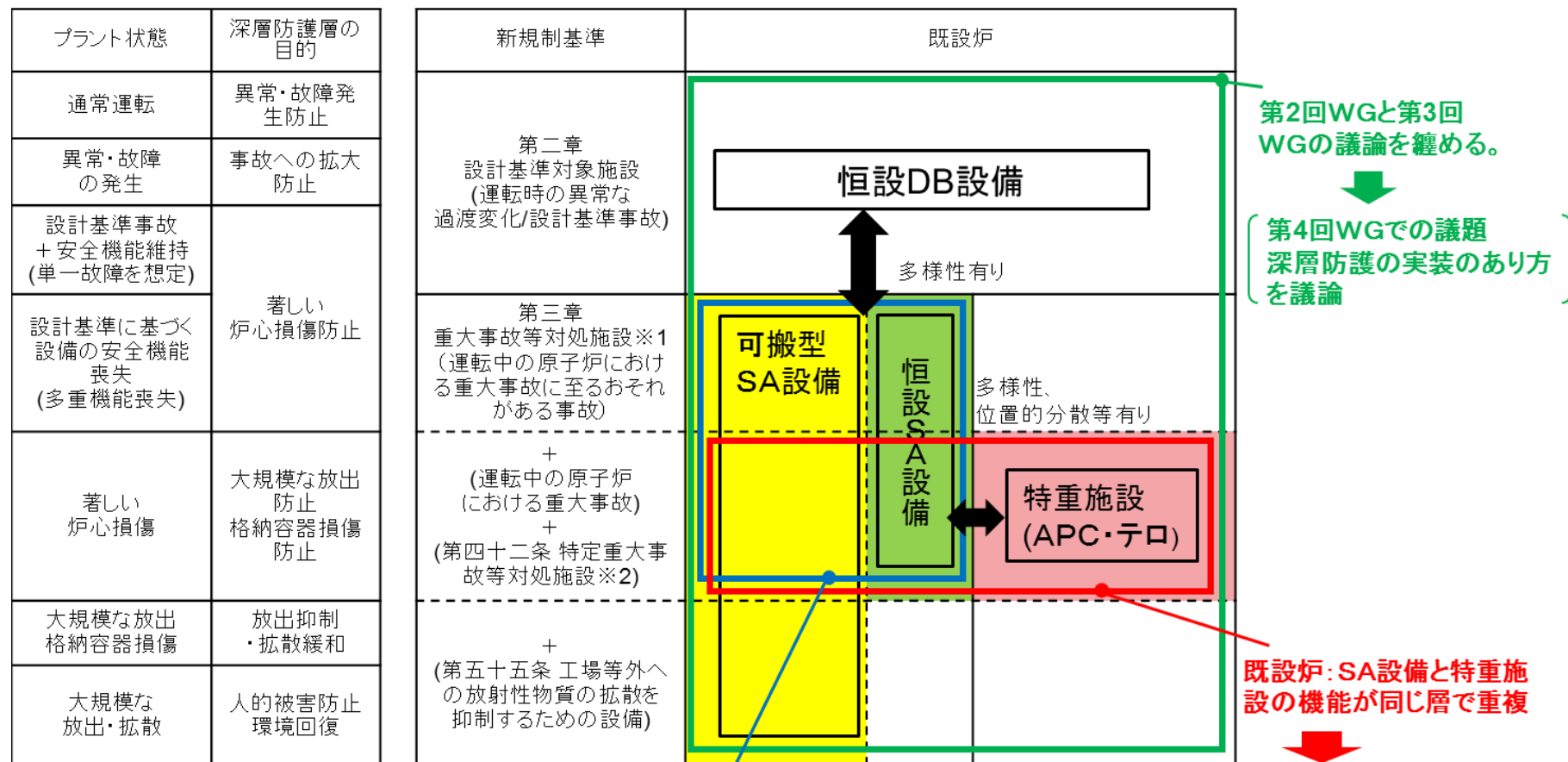
資料 2 - 2

- 第2回WGでは恒設設備／可搬型設備の取扱いに係る協議を行い、第3回WGでは特重施設の取扱いに係る協議を行う。
- これらは深層防護の実装の観点で互いに関連するため、第4回WGで第2回及び第3回での議論を纏める。(次葉の図参照)

WG	議題(第3回以降は案)
第2回	設計段階からシビアアクシデントを考慮可能な新設炉における設備構成を最適化することを踏まえ、恒設設備／可搬型設備のあり方を議論する。 ・ 恒設設備／可搬型設備の特徴 ・ シビアアクシデント対策の考え方(既設炉) ・ シビアアクシデント対策の考え方(新設炉) ・ シビアアクシデント対策の最適化(恒設設備と可搬型設備の組合せ)
第3回	新規制基準で要求される安全機能を整理し、物理障壁を考慮した新設炉でのAPCその他テロ対応のあり方を議論する。 ・ SA設備／特重設備の特徴 ・ APCその他テロ対応(特重施設)の考え方(既設炉) ・ APCその他テロ対応(特重施設)の考え方(新設炉) ・ APCその他テロ対応の最適化 (第2回で最適化したシビアアクシデント対策と特重施設の組合せ)
第4回	第2回及び第3回の議論を踏まえ、新設炉におけるより安全でより合理的な深層防護の実装のあり方を議論する。 ・ 深層防護の実装の考え方 ・ 第2回及び第3回での議論の纏め ・ 新設炉における深層防護の実装のあり方 (シビアアクシデント対策とAPCその他テロ対策の技術要件)

第2回～第4回WGでの議論の範囲と関連性(2/2)

- 既設炉におけるSA設備(恒設設備／可搬型設備)と特重施設の組み合わせによる深層防護の実装を図示する。



※1 設計基準対象施設との多様性等の要求有り。

※2 他の重大事故等対処施設との多様性等の要求有り。